

授業科目の概要

(2025年度実施内容。2026年度には一部変更の可能性あります)

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

▶ 基幹科目

生涯福祉総論I 担当：山崎 順子

少子高齢社会を迎え、人々の生活環境が大きく変化する中、各世代のニーズは多様化・複雑化している。本講義では、児童期・青年期に焦点を当て、生涯発達を見据えた視点より国の施策・ニーズを捉え、課題と支援のあり方について考える。

生涯福祉総論II

担当：石川 正憲／井上 牧子／原 孝成／村田 久／姜 恩和

各教員の専門領域の中で、総論として学ぶべき内容、すなわち、少子高齢化社会と政策課題、家族の変動、ソーシャルワークの範囲や価値・倫理、各世代の臨床で見られる精神障害、保育の実践と支援という5つのテーマについて考察を深める。

▶ 福祉関連科目

子ども家庭福祉特論 担当：姜 恩和

昨今の子ども家庭福祉を取り巻く環境について検討しつつ、子どもが健やかに生まれ育つための妊娠期からの切れ目のない支援、子ども家庭福祉制度、サービス体系について考察する。

高齢者福祉特論 担当：鳥羽 美香

高齢者福祉の発展過程を振り返り、高齢者の生活実態について考察する。社会における高齢者観の変遷を概観し、日本と海外におけるエイジズムの実態と、社会福祉専門職におけるエイジズムの課題に関して探求する。

障害者福祉特論 担当：山崎 順子

障害者福祉は、施策、制度、支援の体系である。本講義では、史的展開を押さえ、実態を捉え、障害者福祉の今日的意義、課題を理解し今後について展望する。

精神保健福祉特論 担当：古屋 龍太

日本の精神保健医療福祉の特異な歴史と現状を理解し、現行法制度の下での支援の実態や課題となっている事柄を通して、精神疾患を有するひとにかかわる支援者の姿勢等を検討する。

福祉政策特論 担当：平野 寛弥

日本の福祉政策について、「社会的シティズンシップ」の観点から批判的に検討する。具体的には、さまざまなトピックを取り上げながら、「共生」や「包摂」を理念に掲げる日本の福祉政策の到達点と課題を考察する。

地域福祉特論 担当：高橋 良太

複雑・多様化する地域生活課題の状況に対応した、市町村における包括的支援体制の整備等地域福祉施策の実践を学ぶ。また、地域生活課題の解決に不可欠な非制度の活動や支援について分析し、今後の地域福祉の展開を論じる。

公的扶助論 (2025年度は開講せず)

公的扶助論は、制度的な側面と対象となる生活困窮者の生活の問題を含んでいる科目である。このことは、貧困という概念だけではなく「生活困窮」そのものを社会的にどのように理解するかであり、これを基本に研究する。

福祉経営特論 担当：綿 祐二

福祉経営をマネジメントとアドミニストレーションの両面より探究していく。福祉現場における「理論と実践の融合」のできる専門職養成や組織論と経営戦略論の視点から労務、財務における人材育成について実例を交えて論じていく。

ソーシャルワーク論 担当：井上牧子

ソーシャルワークの理論的変遷について学ぶ。特にプログレッシブソーシャルワークと言われる理論のうち、ラディカル・ソーシャルワークやクリティカル・ソーシャルワークに焦点を当てて、実践の可能性について考察する。

▶ 保育・発達支援関連科目

現代保育特論 担当：松永 愛子

現代社会において保育施設に求められている機能や背景を概観し、制度の枠組みを超えて重要と考えられる幼児理解を基にした遊びの質・保育の質の確保について、意義や方法を考える。

保育ニーズ特論 担当：原 孝成

子ども・子育て新制度がスタートし、多様な保育ニーズが求められる保育現場の現状とそこで求められる専門性とは何かについて論考するとともに、実践事例の検討などを通して議論を深めていく。

子育て支援特論 担当：村田 久

現代の親たちに対してどのような子育て支援をしていけばよいかについて、制度面および心理面から検討していく。また、最近、増加している外国にルーツを持つ親子への支援についてもみていくことにする。

スクールソーシャルワーク特論 担当：岩田 美香

スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と教育制度、また支援の対象となる児童生徒と家族を理解する。その上で、学校におけるソーシャルワーク実践と展開について、事例検討も含め考察する。

発達・家族心理学特論 (2025年度は開講せず)

生涯発達の諸理論に対する理解を深め、各発達段階で重要なテーマとなる研究論文を読み進める。さらに、家族・親子や夫婦関係の諸問題、介護をめぐる家族や障がい者の家族問題にも焦点を当てる。

障害児福祉特論 担当：山崎 順子

子どもは、家族や地域社会との関わりの中で成長・発達する。本講義では、特に子どもの育ちと家族の関係のあり様に主眼を置きながら、さらに社会資源・支援との関係を考慮に入れ、ソーシャルワークの視点より考察していく。

福祉臨床論 担当：近藤 千草

福祉臨床の場としての保育所における援助の在り方、養護・教育に関する事項、保育内容等の基本的原則について理解を深めると共に、子どもの発達過程を踏まえた専門的な知見から、質の高い遊びについて事例を通して考察する。

▶ 倫理・権利関連科目

生命倫理特論 担当：石川 正憲

近年、医学の進歩に伴い、「ヒトの死」や「ヒトの生」に対して、医学が介入し始めた。しかし、それによって、医学だけでは解決できない多くの生命倫理の問題が浮き彫りとなった。授業では、そうした生命倫理の問題を、一つひとつ学習することとする。

権利擁護特論 担当：飯村 史恵

日本では、社会福祉基礎構造改革以降、制度・政策レベルでも「権利擁護」が語られるようになってきたが、数多くの課題が指摘されている。本講義では、多角的視点から、ソーシャルワークの基盤をなす人権と社会正義について考える。

▶ 演習科目

生涯福祉演習I 担当：原 孝成

質的調査や質的データ分析方法について基本的学習を行い、質的研究に関わる論文を購読し、質的研究の研究対象や、調査方法、分析方法の適応方法について理解を深めることを目的とする。

生涯福祉演習II 担当：姜 恩和

子ども家庭福祉制度、サービス体系についての学びを土台としつつ、受講生の関心に合わせてフィールドにふれる機会を持ち、実践例を取り上げて多角的な視点で支援策を検討する。

生涯福祉演習III (2025年度は開講せず)

研究論文における社会福祉研究の調査法について、演習形式で吟味しながら、実際の研究に即した形で理解する。研究テーマに関連した学術誌の掲載論文を教材として、調査法を修得する。

▶ 特別研究

特別研究I・II・III・IV

研究課題の設定から論文の執筆、資料収集や調査内容の整理方法など、2年間を通して修士論文の作成を一貫指導する。個別の指導教員のほか、構想(デザイン発表I・II)や中間発表を通じ複数の教員が集団指導を行う。

カリキュラム (修了要件：30単位以上)

	科目名	単位数		配当年次
		必修	選択	
基幹科目	生涯福祉総論I	2		1
	生涯福祉総論II	2		1
福祉関連科目	子ども家庭福祉特論		2	1・2
	高齢者福祉特論		2	1・2
	障害者福祉特論		2	1・2
	精神保健福祉特論		2	1・2
	福祉政策特論		2	1・2
	地域福祉特論		2	1・2
	公的扶助論●		2	1・2
	福祉経営特論		2	1・2
	ソーシャルワーク論		2	1・2
	現代保育特論		2	1・2
保育・発達支援関連科目	保育ニーズ特論		2	1・2
	子育て支援特論		2	1・2
	スクールソーシャルワーク特論		2	1・2
	発達・家族心理学特論●		2	1・2
倫理・権利関連科目	障害児福祉特論		2	1・2
	福祉臨床論		2	1・2
	生命倫理特論		2	1・2
	権利擁護特論		2	1・2
演習科目	生涯福祉演習I		2	1・2
	生涯福祉演習II		2	1・2
	生涯福祉演習III●		2	1・2
特別研究	特別研究I	1		1
	特別研究II	1		1
	特別研究III	1		2
	特別研究IV	1		2

●印は2025年度は開講せず

履修スケジュール例 (夜間・土曜講義受講を前提に履修する場合の1年次)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	
1	9:30 ~ 11:00					1	
2	11:10 ~ 12:40	※平日第1～3時限は生涯福祉専攻の授業はありません。					2
3	13:30 ~ 15:00					3 ●生涯福祉総論I	
4	15:10 ~ 16:40					4 ●生涯福祉総論I	
5	16:50 ~ 18:20			生涯福祉演習II			
夜1	18:30 ~ 20:00	ソーシャルワーク論		福祉臨床論	●生涯福祉総論II		
夜2	20:10 ~ 21:40		特別研究I			●生涯福祉総論II	

…春学期 …秋学期 ●2時限続きで隔週授業